第１章　香取市の概要

１．自然的・地理的環境

（１）位置

千葉県北東部に位置しており、東京都心から直線距離で約 70 km、成田国際空港から約 20 km の距離にある。市域は東西約 21.2 km、南北約 22.7 kmにわたり、面積は、262.35 km²と県内第４位の規模を有している。東は東庄町、南は旭市・匝瑳市・多古町、西は神崎町・成田市、そして北は茨城県の稲敷市・潮来市・神栖市に接している。

北部には利根川が西から東へ貫流しており、河口から約 40 kmに位置する。平成 18（2006）年に佐原市、小見川町、山田町及び栗源町の１市３町が合併し、現在に至っている。合併後は旧市町の単位で表現する際に、便宜的に「佐原地区」等とすることが多いため、本計画でもそれに倣うこととしたい。

香取市の概要図

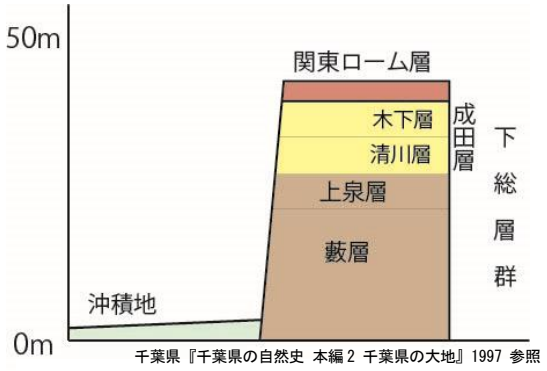
（２）地形・地質

市内の地形は、利根川沿いの沖積平野と下総台地と呼ばれる洪積台地とに二分される。台地は標高 30～50mで、東から西にかけて低くなる傾向がある。最高標高は小見川地区東部の台地上で 52mであり、全体に起伏の小さい地域である。台地と低地の高低差は大きくないものの、その間の斜面は急斜面となっているところが多い。台地には樹枝状の谷が刻まれ、奥部の細い谷は谷津と呼ばれる。

香取市の数値標高図

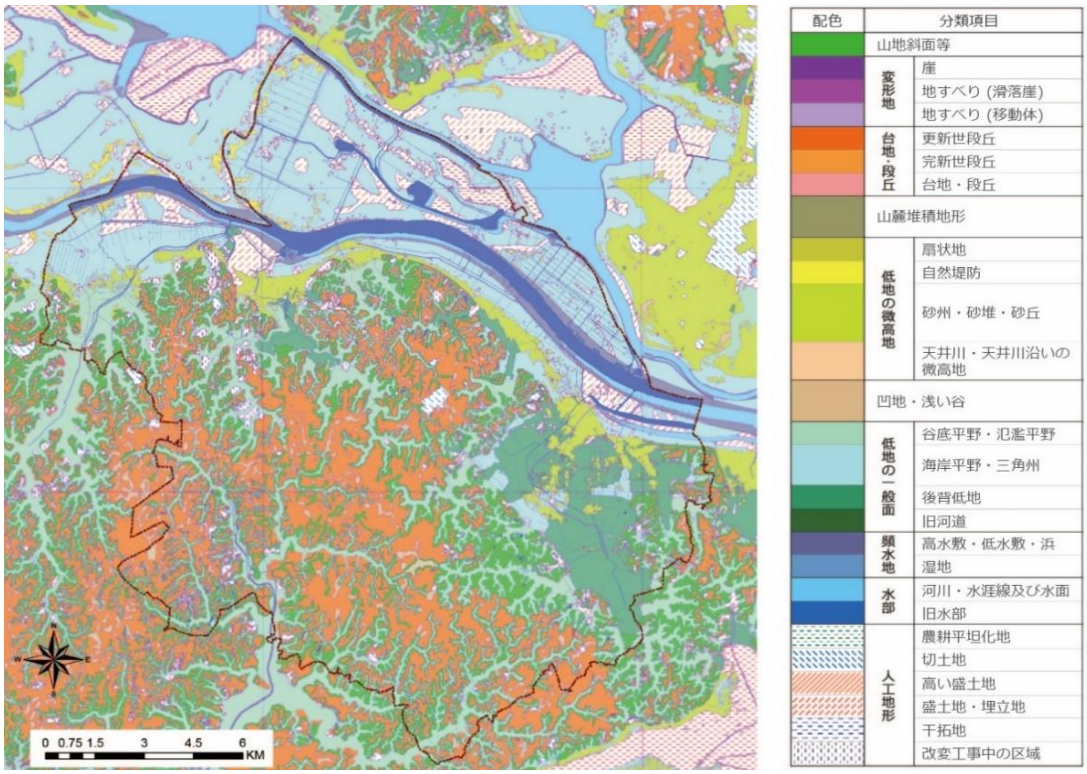
約 12 万年前の温暖な間氷期には、現在よりも海水面が高かったため、市域周辺は海底下にあった。この時期に下総台地の土台となる成田層（木下層など）と呼ばれる海成層が形成された。その後、約 2 万年前までの寒冷な氷期においては海水面が低下し、陸化した台地上に関東ローム層が形成された。現在河川が流れているところには深い谷が刻まれ、台地を樹枝状に削ったことで現在の台地縁辺の急斜面が形成された。その後、約 6,000 年前の縄文海進の時期にかけて急激に温暖化したことで海水面が上昇し、現在よりも数m高い位置まで海水が流入した。関東平野南部の川沿いは海水で満たされ、市の北部には広大な内海が形成されたほか、南部の栗山川流域も内海になっていた。現在にかけて再び海水面が低下し、河川により運ばれた土砂が堆積することにより沖積平野が広がっていった。中世以前の北部地域は、旧鬼怒川（現・利根川）が氾濫するたびに流れが変わる氾濫原であったが、江戸時代以降の干拓事業により主に水田として利用されている。

以上のような変遷を経て地形が形成されたため、台地の露頭の模式的な断面は、表土の下に関東ローム層、その下に海成層である成田層という順序となる。また、十数万年の周期で間氷期と氷期を繰り返してきたため、成田層以前にも海成層が形成されており、これらは下総層群と総称されている。



千葉県『千葉県の自然史 本編 2 千葉県の大地』1997 参照

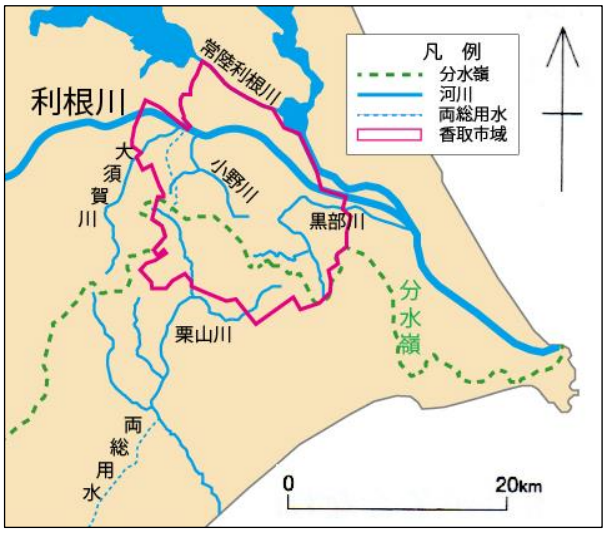
佐原付近の地質断面模式図



香取市周辺の土地条件図（赤枠は市域）

（３）河川

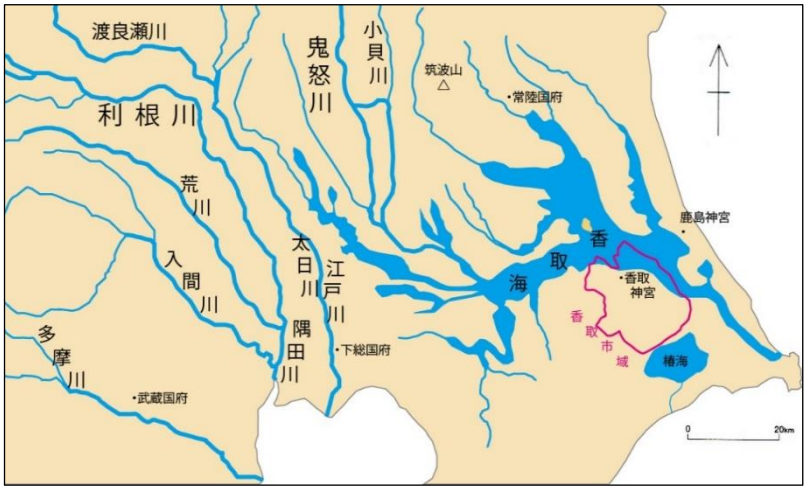
河川は市北部を利根川が西から東へ流れる。北限は常陸利根川が茨城県との県境をなしている。また、下総台地から利根川に合流する支流は、大須賀川、小野川、黒部川などがある。南部は直接太平洋に注ぐ栗山川の上流域である。西部を南北に両総用水が流れるが、これは農業用水の供給のため、香取市佐原で利根川から取水した水を九十九里平野南部に送るもので、栗山川の一部はその役割も果たしている。



香取市周辺の河川の流域

北部の千葉県と茨城県にまたがる地域は、約６千年前には大きな内海が存在していた。その範囲は、霞ケ浦や北浦、印旛沼、手賀沼にも及び「香取の海」、「常総の内海」などと称されている。古代においてはこの内海を挟んで香取・鹿島の両神宮が鎮座し、沿岸には水上交通を介在した文化・経済圏が醸成された。

かつての利根川は、東京湾に注いでいた。利根川東遷事業は徳川幕府が近世以降に行ったもので、旧来の利根川中下流の付け替えとなる河川改修で、東方向に流れを変えることで銚子から太平洋に注がせることに成功した。これにより、それまでの東廻り航路の難所である房総半島沖を経由せず、利根川と江戸川を通る新たな河川航路が開発されたことにより、銚子・佐原などの利根川沿いの町が物資の集積地として発展するきっかけとなった。



千葉県立中央博物館大利根分館展示等を参照

利根川・鬼怒川の約 1,000 年前の水脈想定図

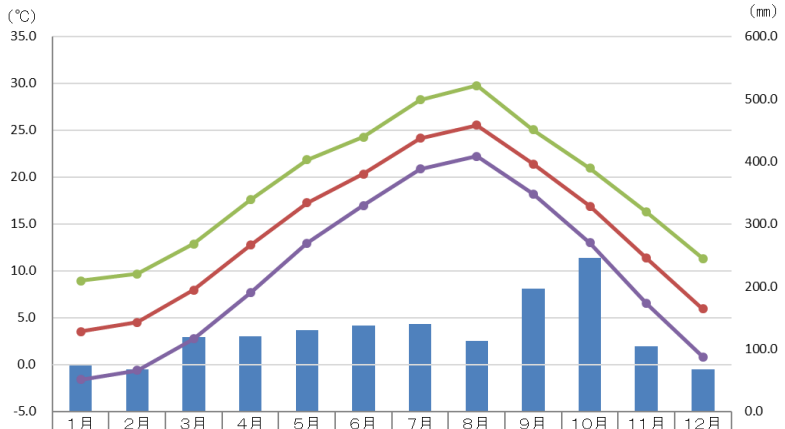
一方で、利根川下流域では頻繁に水害が発生するようになったため、明治時代後半以降に利根川の改修工事が重ねられ、現在では水害もほとんど発生しなくなった。

（４）気候

気候は比較的温暖で、年間平均気温は、平成 4（1992）年から令和 3（2021）年の 30 年間の平均で 14.0℃である。同期間の最暖月の平均気温は約 25.5℃、最寒月の平均気温は約 3.6℃、年較差は 21.9℃である。年間降水量は同期間の平均で 1,517 ㎜、秋季に多く冬季に少ない傾向が見られる。全国的に見ると太平洋側の温帯地方の海洋性気候に位置づけられる。千葉県内の

月平均・最高・最低気温、月降水量（30年間）

年間平均気温（℃）	14.0
最高気温の年平均（℃）	18.6
最低気温の年平均（℃）	9.7
降水量の年平均（㎜）	1,517



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
降水量（㎜）	76.6	68.0	119.0	120.8	130.2	137.7	139.6	112.3	196.0	245.5	103.9	67.8
月平均気温（℃）	3.6	4.5	8.0	12.7	17.3	20.4	24.1	25.5	21.4	16.9	11.4	6.0
最高気温の月平均（℃）	8.9	9.7	12.9	17.6	21.8	24.3	28.2	29.7	25.0	21.0	16.3	11.3
最低気温の月平均（℃）	-1.6	-0.6	2.7	7.7	13.0	17.0	20.9	22.2	18.2	13.0	6.5	0.8

出典：気象庁ＨＰ

銚子や館山のような海洋性気候の影響が強い地域と比べて、比較的気温が低く降水量も少ない。その中でも市の東部は海洋性の影響を受けやすく、市域の東部と西部で天候に差が現れることもある。

冬季は北西寄りの季節風が強く、降雪はあまり見られない。旧家では風除けのため屋敷林もしくはマキなどの生垣で囲まれた家も多い。

（５）植物・動物

市域は、暖帯性森林帯（照葉樹林帯）の北端に位置しており、自然性が高い照葉樹林が、北総台地上や南向き斜面にみられる。また、利根川沿いの斜面には、湿った環境に成立するタブノキ林が発達する場所がある。台地の縁には巨大なスギと共に照葉樹が混在する県指定天然記念物「香取神宮の森」や、地域のシンボルとなっている巨大なタブノキである国指定の天然記念物「府馬の大クス」がある。他方、北総台地に刻まれた谷津の北向き斜面では、二次林や植林が多い。よく管理されている落葉広葉樹林では、温帯性のカタクリなどが記録されている。市域の北部には利根川沿いの低地が広がり、貴重な湿性植物の生育地になっている。特に河川敷の単一相のヨシ原は貴重で、近年は環境改善のためのヨシ焼きが行われはじめた。水郷佐原あやめパークでは水郷地帯の湿地を象徴するように、初夏から「あやめ祭り」「はす祭り」等が催される。

市の花・アヤメ

（ハナショウブ・カキツバタ等も含む）

動物も植物相を受けて多様な種類が分布するものの、土地利用が進んでいるため生息しやすい場所は限られる傾向がある。その中で利根川河川敷周辺などは水郷筑波国定公園に含まれ、鳥類を中心に多様な生物の住処となっている。河川敷ではオオヨシキリ、コジュリン、オオセッカなど希少な鳥類が観察できる。また、横利根川などにはヘラブナやブラックバスを求め多くの釣り人が訪れ、川魚やうなぎ料理は地元名物となっている。また、栗山川は鮭の遡上南限で、県指定無形民俗文化財「山倉の鮭祭り」に重要な役割を果たしている。

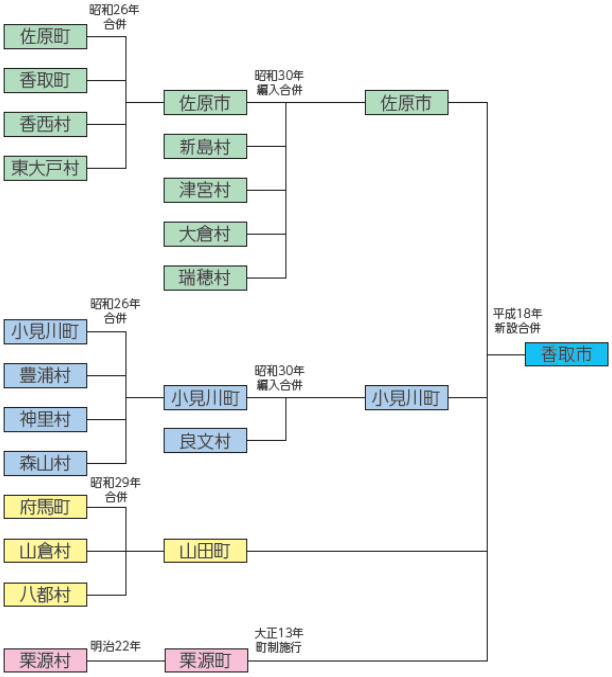
市の鳥・ヨシキリ

（オオヨシキリ・コヨシキリ）

２．社会的状況

（１）香取市の成り立ち

香取市は平成 18（2006）年 3 月に佐原市と小見川町、山田町、栗源町の 1 市 3 町が新設合併し、現在に至っている。現在の香取市内においては、明治 22（1889）年 4 月の町村制施行の際、佐原町や小見川町など計 18 の町村が成立した。

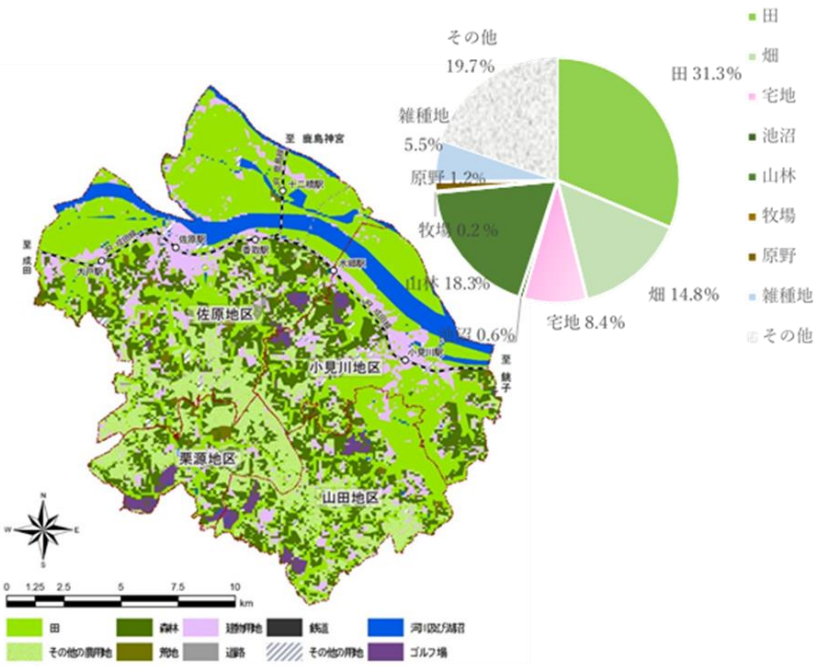


合併経緯図

旧佐原市においては、昭和 26（1951）年 3 月に佐原町、香取町、香西村、東大戸村が合併して佐原市が誕生し、昭和 30（1955）年 2 月には、新島村、津宮村、大倉村、瑞穂村を編入合併した。旧小見川町においては、昭和 26 年 4 月に小見川町、豊浦村、神里村、森山村が合併して小見川町が誕生し、昭和 30 年 2 月には、良文村を編入合併した。旧山田町は、昭和 29 年（1954）8 月に府馬町、山倉村、八都村が合併し、山田町が誕生した。旧栗源町は、明治 22 年 4 月に栗源村が誕生し、大正 13（1924）年 4 月に町制施行により栗源町に移行した。

（２）土地利用

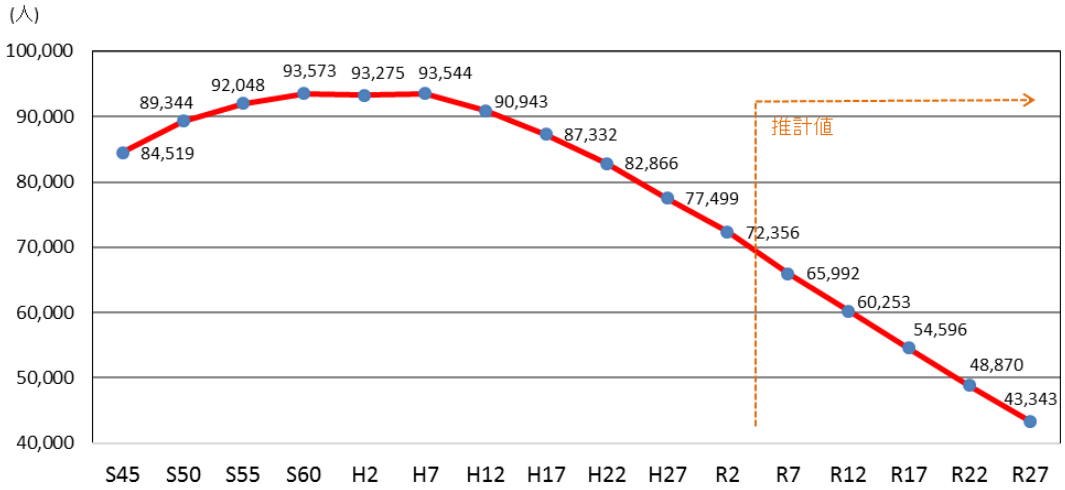
豊かな自然環境や歴史・文化資産に恵まれ、佐原地区中心部、小見川地区中心部に市街地が形成され、特に佐原地区中心部は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、水郷観光の拠点となっている。



香取市土地利用図と地目別土地面積割合グラフ（市面積：262.3㎢）

農業が盛んな地域であり、郊外では低地と台地を生かした農業生産を行っている。31.3%を占める水田は利根川沿いやその支川、また栗山川沿いなどに分布する。14.8%を占める畑地は下総台地上を中心に分布する。

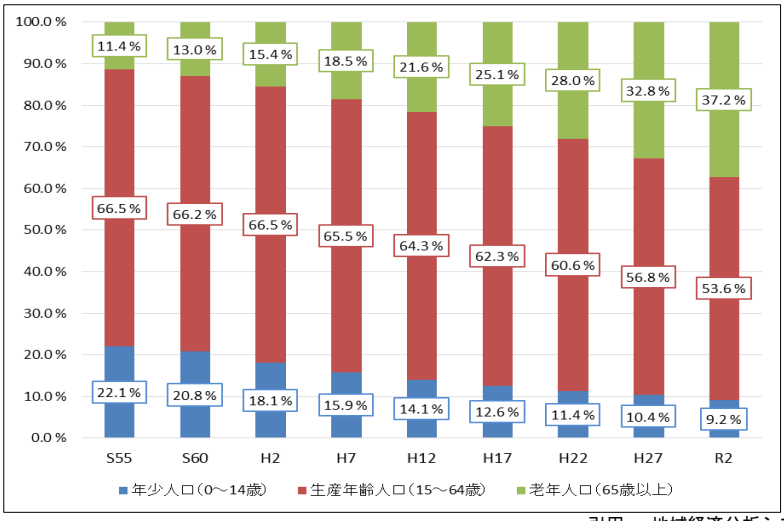
（３）人口動態



香取市の人口の推移　出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

人口（平成18年以前は、合併前の佐原市、小見川町、山田町及び栗源町の人口の合計数）は、昭和45（1970）年以降増加を続けていたが、昭和60（1985）年の93,573人をピークに減少に転じている。近年はその傾向が加速しており、平成17（2005）年から平成27（2015）年までの10年間では、約１万人（11.3%）減少している。この傾向は現在も続いており、令和2（2020）年の人口は72,356人で、その後の人口は令和7（2025）年には65,992人、令和12（2030）年には60,252人へと推移していくとの推計になっている。

年齢階層別人口の推移をみると、15歳未満の年少人口の比率が減少する一方で、65歳以上の老年人口の比率が大幅に増加している。全体として人口構成は、少子高齢化が加速的に進んでいる。令和4（2022）年4月1日には、過疎地域の自足的発展の支援に関する特別措置法（令和3年法律第19号）に規定する一部過疎地域（佐原・山田・栗源地区）となった。



香取市の階層別人口の推移　引用：　地域経済分析システム（RESAS）
出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

（４）交通機関

古くは「香取の海」を中心とする水上交通が盛んで、江戸時代以降は利根川を中心とした舟運が発達し、様々な物資の集散地として栄えた歴史を有するなど、交通の要衝の地でもあった。

周辺の道路は、東京・千葉方面と茨城県とを結ぶ交通動脈として、東関東自動車道水戸線があるほか、近接地に首都圏中央連絡自動車道が整備されている。市内の道路網としては、利根川とほぼ並行して東西に走る国道 356 号線（銚子市～我孫子市）と、市の西部を南北に走る国道 51 号線（千葉市～水戸市）の国道２路線を中心に、主要地方道、一般県道、市道等によって構成される。

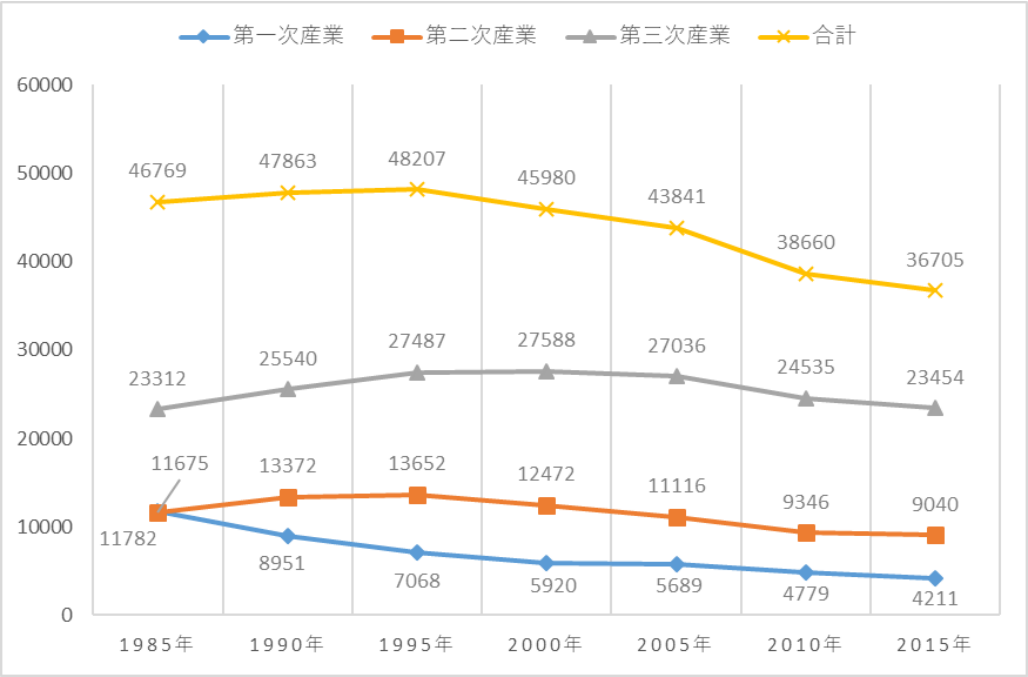
鉄道は、東京・千葉方面と銚子方面を結ぶ JR 成田線と、佐原と茨城県鹿嶋市方面を結ぶ JR 鹿島線が走っており、成田線の大戸駅・佐原駅・香取駅・水郷駅・小見川駅、鹿島線の十二橋駅の合計６つの駅がある。JR 成田線を利用して、成田駅まで約 30 分、東京駅まで約 85 分と、通勤・通学者の日常的な交通手段となっている。

バス交通は、主要駅などを中心に市内各所を結ぶ民間バス会社による路線バスと市コミュニティバスが運行している。また、東京方面とは東関東自動車道を経由した高速路線バスで結ばれており、住民や観光客の移動手段として大きな役割を果たしている。

市内の交通機関

（５）産業

就業者数の推移としては、平成 7(1995) 年の 48,207 人をピークに人口の減少に伴って就業者数も全体として減少している。構成比率の推移をみると、第３次産業就業者の割合が増加傾向にあり、第１次、第２次産業従事者の割合が減少傾向にある。第１次産業就業者数は一貫して減少していながらも、平成 27（2015）年まで構成比率は 10%を超えており、全国平均の４％よりも高い水準にある。



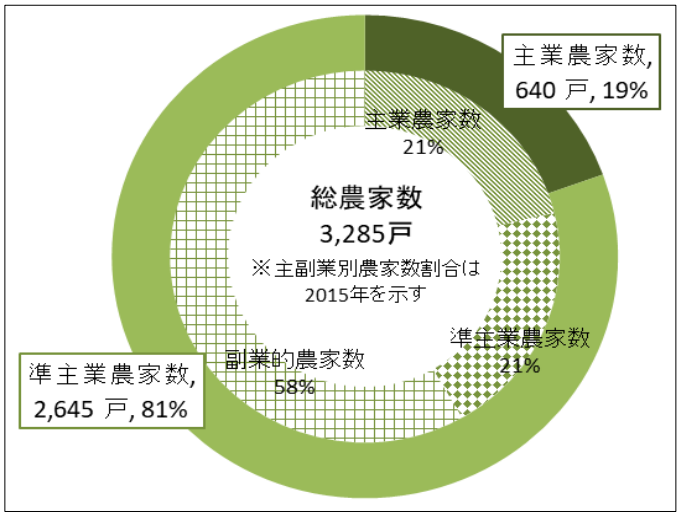
出典：国勢調査

産業別就業者数の推移

①農業

香取市では、温暖な気候、利根川の豊富な水、下総台地の肥沃な耕地などの自然条件に恵まれ、稲作、畑作、畜産など多様な農業が展開されている。総農家数は 3,285 戸で、うち主業農業農家数は 640 戸、準主業農家数は 2,645 戸、経営耕地面積は 11,200ha（『2020 年農業センサス』）である。

また、農産物生産額（農林水産省令和元年市町村別農業産出額）

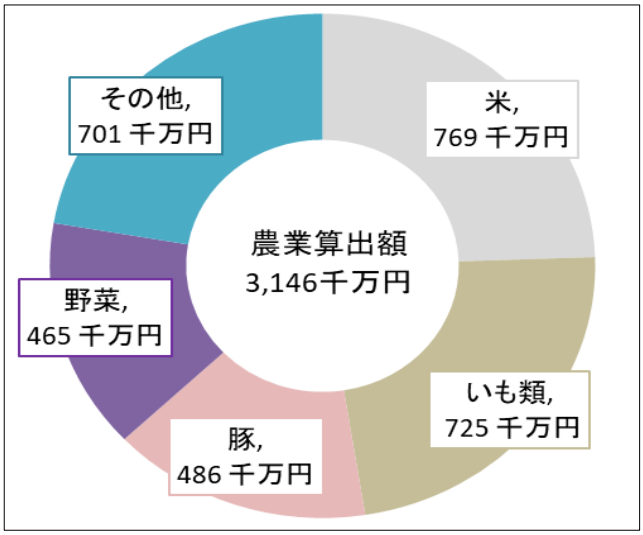


出典：「2020 年農林業センサス」

香取市総農家数

は総額で約 315 億円である。部門別でみると米が約 77 億円でもっとも多く、次いでいも類が約 73 億円、養豚が約 49 億円、野菜が約 47 億円などである。

米の生産量は香取市誕生後、県内で 1 位を維持している。野菜類の生産額も常に県内上位と農業が盛んで、甘藷（かんしょ）などが特産品である。



出典：「令和元年市町村別農業産出額（推計）」

令和元年度農業産出額

栗源地区は甘藷の栽培が盛んで、昭和 49 年（1974）に同地区の畑で試験栽培されたのが栗源地区でのベニコマチ栽培の始まりである。同地区で行われる「ふるさといも祭」は昭和 51(1976)年に第 1 回が開催され、以後毎年 11 月に行われ 40 回以上を数える。広場で籾殻（もみがら）を使ってじっくりと焼きいもを焼く風景は、平成 6(1994)年に第 2 回美しい日本のむら景観コンテストで農林水産大臣賞を受賞している。

②工業

工業の状況をみると、事業所数は 90、従業者数は 2,720 人、製造品出荷額等は約 730 億円（令和元年工業統計調査）である。製造品出荷額等は、平成 23（2011）年までは減少の傾向を示してきたが、平成 24（2012）年からは増加・維持の傾向を示している。

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
事業所数	133	122	121	119	110	105	115	101	94	93	90
従業者数	3,076	2,873	2,476	2,694	2,548	2,387	2,812	2,745	2,743	2,749	2,720
製造品出荷額等（千万円）	6,915	5,904	5,423	5,994	6,215	6,456	7,132	7,837	7,567	7,499	7,300

出典：「令和元年工業統計調査」

事業所数、従業者数、製造品出荷額の推移

③商業

卸売業、小売業を合わせた商店数は 870 店、従業員者数は 5,021 人、年間販売額は約 1,128 億円（平成 26 年商業統計調査　※平成 26 年を最後に廃止）で、年々減少している。

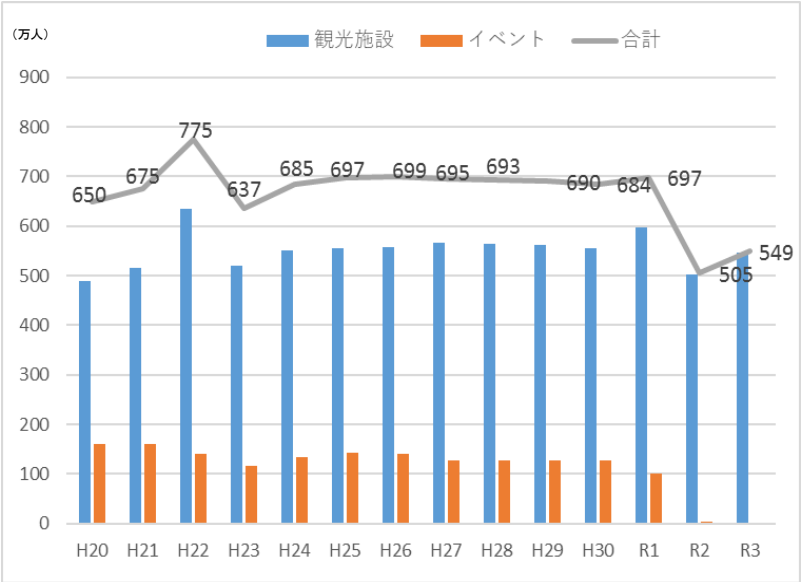
	1999	2002	2007	2014
	平成11年	平成14年	平成19年	平成26年
	H11	H14	H19	H26
商店数	1,571	1,447	1,223	870
従業者数	7,629	7,520	7,018	5,021
年間販売額（千万円）	16,194	14,572	13,528	11,281

出典：「平成 26 年商業統計調査」

商店数、従業者数、年間販売額の推移

（６）観光

年間入込客数は、令和元（2019）年が約 697 万人で、平成 23 年の震災時には約 637 万人と減少したものの、その後は回復している。令和元年度からの新型コロナウイルス感染拡大の影響により、特にイベント関係の開催が困難になったことで、令和 2 年（2020）、令和 3 年（2021）はイベントの入込客数はほぼ無い状況になった。その中でもテレビ放送や雑誌等のマスメディアの情報発信機会の増加や文化財の活用の進展等もあり、観光施設の入込客数は大幅な減少には至らなかった。



香取市の年間入込客数　　出典：香取市商工観光課

主だったところで、参詣客で賑わう香取神宮や、重要伝統的建造物群保存地区に選定された佐原の町並み、初めて実測による日本地図を作成した伊能忠敬の旧宅やその事績を紹介する伊能忠敬記念館などには、日常的に多くの観光客が訪れる。また、水郷佐原山車会館や水郷佐原あやめパークなどの観光施設のほか、道の駅・川の駅水郷さわら、道の駅くりもと、農産物直売所（風土村）、観光果樹園、ふるさと農園などの交流拠点も整備されている。近年では水上スポーツ、釣り、ゴルフなどスポーツ観光に訪れる人も増加している。

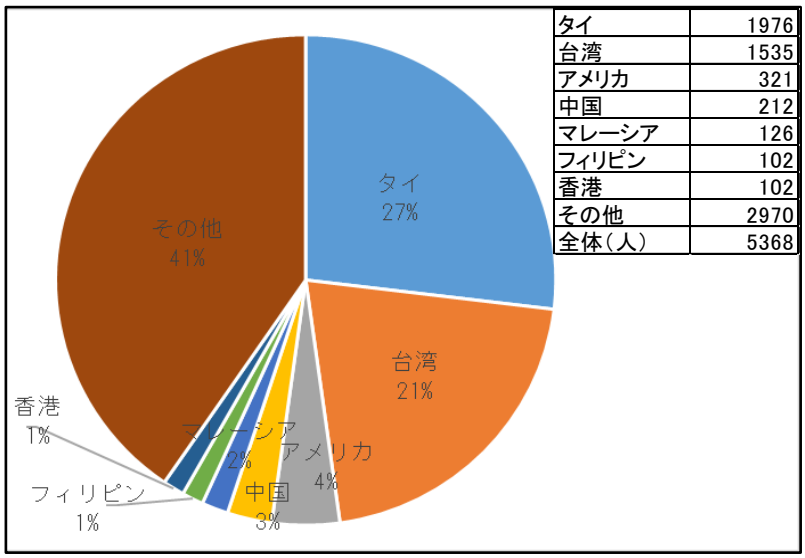
季節行事では夏と秋に開催される佐原の大祭や香取神宮の初詣などに多くの観光客を集めている。ほかにも、城山公園のさくらつつじまつりや水郷佐原あやめ祭り・はす祭り、小見川祇園祭、水郷おみがわ花火大会、ふるさといも祭にも多くの人々が訪れる。

平成 28 年度に、成田・佐倉・銚子の 3 市と共に「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」として日本遺産の認定を受け、さらに「佐原の山車行事」がユネスコ無形文化遺産の一つに登録されたことにより、香取市の魅力を国内外に発信し、観光客の誘致を図るなど地域振興に繋げている。

特に佐原の町並みでは、佐原町並み交流館を拠点にＮＰＯ法人・小野川と佐原の町並みを考える会が観光案内のボランティアガイドを行ってきたが、近年では伝統的建築を模した建てたさわら町屋館を観光客の休憩施設としたり、町屋などを改装し飲食店やホテルとして新たに活用を図るなど、歴史的な町並みを活かした観光事業が行政・民間ともに進められている。また、近年の御朱印ブームもあり香取神宮・鹿島神宮・息栖神社を巡る東国三社詣が注目を集めて

おり、参拝者の増加に繋がっている。

外国人観光客については、成田国際空港に近いことなどもあり、観光案内等を行う佐原町並み交流館独自の統計では年々増加傾向にあったが、コロナ禍により大きく減少した。外国人来訪者数比率（令和元年度）は、国別では、タイ（27%）・台湾（21%）・アメリカ（4%）の順で多く、タイと台湾で半数近くを占める。タイ人観光客が多く訪れるのは、タイ人著名俳優を起用した映画・テレビドラマの撮影地として何度も使われたことにより認知・注目を集めた影響がある。近年はタイ人の国際交流員が常駐しており、タイに向けた情報発信等を担っている。



タイ	1976
台湾	1535
アメリカ	321
中国	212
マレーシア	126
フィリピン	102
香港	102
その他	2970
全体（人）	5368

令和元年度　町並み交流館来訪外国人出身地

佐原・香取周辺の主な観光資源